

PHD LETTER

102

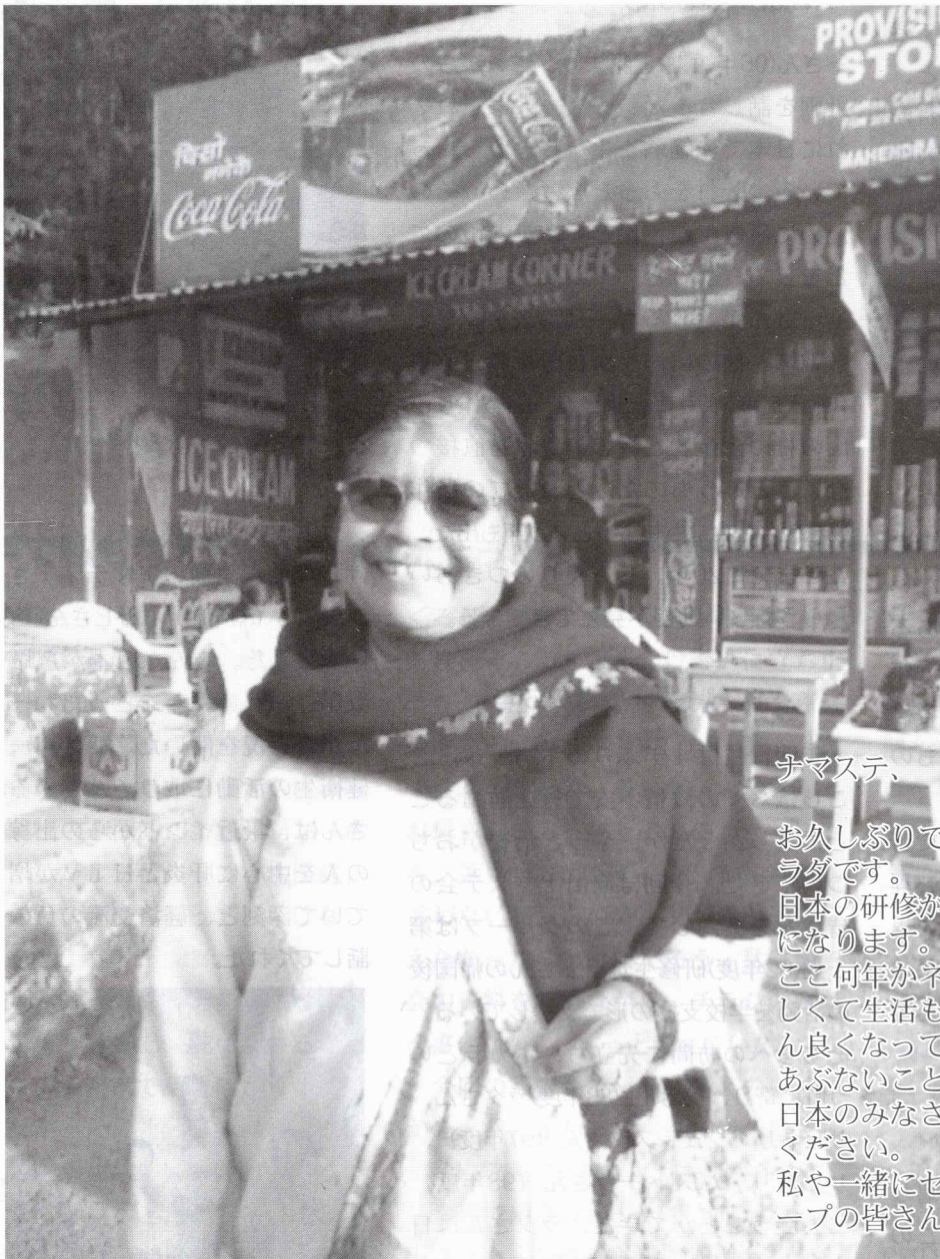
2007.3

PEACE, HEALTH & HUMAN DEVELOPMENT

- 国内スタディツアー「水俣」報告～その2～
- 研修生／帰国研修生レポート
- 同じ買うなら、使うなら！「澤登さんちの純粋葡萄ジュース」

PHD運動とは1962年よりネパール、東南アジアを中心に医療活動に従事した岩村昇博士の提唱による国際社会福祉運動です。これまで自分のためだけに使っていた時間、技能、財などの10パーセントをささげて、平和 (Peace) と健康 (Health) を担う人づくり (Human Development) をすすめ、共に生きる社会をめざし、1981年からはじまりました。

発行：財団法人PHD協会 理事長 今井 鎮雄
編集人：藤野 達也
住所：〒650-0022 神戸市中央区元町通5-4-3
元町アーバンライフ202
TEL 078-351-4892 FAX 078-351-4867
E-mail: phd@mb1.kisweb.ne.jp
URL: <http://www.kisweb.ne.jp/phd>
定価：100円
郵便振替口座：財団法人ピー・エイチ・ディー協会
01110-6-29688



ナマステ、

お久しぶりです。第2期PHD研修生のラダです。日本の研修から帰りまして、もう23年になります。ここ何年かネパールは政治のことが難しくして生活も大変でしたけど、だんだん良くなってきました。あぶないこともなくなりましたから、日本のみなさん、またネパールに来てください。私と一緒にセーターを編んでいるグループの皆さんも待っています。

ネパール ポカラ 撮影：FUJINO T.

東西南北
問題解決
取組日記

自分の都合だけ？

給食費を払わない親が増えているという。多くは払えないのではなく、払いたくない、払わずにすむのなら、ということらしい。どうしたことだろう。

もうひとつ。PHD協会は複数の事務所がひとつの階に入り、便所と流しを共用している。ある日、管理人さんがトイレトペーパーをもって訪ねてきて言う。「棚に予備を置いておくと、誰か取ってってしまうので、これからは置けませんから」とのこと。外部の人が入ってくることはまずないひとつの建物の中のこと。

私たちの仲間がいろいろなセミナーや講座を企画する。そのテーマは平和や貧困解決といったものである。連続講座は事前申し込み制で定員を越える人気となり、何人も断ったそうだと。ところが始めてみると、毎回、連絡なしの欠席者がでて、断った人に申し訳ないことになっているという。行けないことについては、それぞれ事情があるのだろうけど、連絡なしの欠席が近年とくに目立つようになったと担当者は言う。携帯やメールという便利なものが普及しているのに。

世界の様々な問題を考え、そこで苦しむ人々をなくそうという趣旨を理解する人でも、身近なことで相手を思いやる気持ちが足りない行動。相手の迷惑がわからない感性の蔓延は、とてもこわい。

タイと20年のおつきあい

年末の北タイ、カレンの村では嬉しい集りに立ち会うことができた。この時期恒例のスタディツアーの来訪にあわせ、かつての研修生であるプリチャーさん(85年度)、アンボンさん(97年度)、サワンさん(98年度)、スラチさん(02年度)、ブンシーさん(00年度)、シューキ



これからの計画を話し合う

ヤさん(06年短期)と集まり、これからの計画を話し合った。一人一人はそれぞれに日本での経験を生かしながらやっている。それをもっと広げたい、そのために研修生が協働して、ひとつのことをしてみようという考えだ。プリチャーさんが始めるガソリンスタンドの敷地に、他の研修生が村で生産する農作物や手織りの布を並べる一面を作り、山の村の生産者と町の消費者を直接つなごうというものだ。とれたての農作物を使った食堂もしようという声も出た。ここまでに20年。じっくりのつきあひからうれしい動きが見えてきている。

ネパールとは25年

年明けには4年ぶりのネパール。ここしばらくの政情不安で村を訪ねることは難しかったが、やっと治安がおちついてきた。今回は篠山ナマステ会の皆さんを案内して。このグループは第1期(82年度)研修生バマトさんの帰国後の活動を学校支援の形で支援している。そちらへの訪問に先立ち、ポカラという町に寄り、第2期生(83年度)ラダさん、サビトリ・シュレスタさん(97年度)、サビトリ・バストーラさん(98年度)にも会うことができた。ラダさんは日本での研修後、近所に住む低カーストの女性を対象に識字教室兼編物教室をはじめた。両サビトリさんはこの教室から推されたの来日だった。ラダさんが自宅の一室を開放した教室はもう23

年になる。今回も昔からの人、新しい人が、私たちを迎えてくれた。彼女たちの編むセーターは、今も続く姫路や下関の先生からの助言により品質が向上している。今期も日本に届いたが、評判が良く、すでに完売してしまった。



ポカラの編物グループの皆さん。右からラダさん、バストーラさん、シュレスタさん。

カトマンズに戻って、バマトさんだけでなく、同期のアマティアさん、サンバさん(83年度)、サヒさん(83年度)にも会えた。みんな日本から帰って20数年、お互いに年をとったねーと言いながら近況を聞いた。西ネパールで保健衛生の活動に取り組んでいるサンバさんは、最近インドからの出稼ぎ帰りの人を中心に肝炎とHIVが増えてきていて深刻と、経済交流の負の一面を話してくれた。



みんな、年をとりました。右からサヒさん、サンバさん、左アマティアさん。

総主事代行 藤野達也

国内スタディツアー水俣 その2

夏の水俣ツアーを終えて、その報告会を10月22日に行いました。当日スケジュールに沿っての報告の後、ツアーで得た多くのことをこれからどう活かしていくのか、自分たちができることをグループに分かれて考えました。



神戸発 自分たちができること！

- これからも続けて学習する。(水俣、新潟、リパティ大阪【人權博物館】)
- 自分の想いを周りの人、子ども達に伝える。家庭内などでの会話から社会に話を広げる。
- まず自分が一生懸命に生きること。
- 環境を大切にする。(例えば環境に配慮した石けんを使う。)
- 食に関心を持つ。
- 事故・事件をかくさない社会に。
- 農業問題に関心を持つ。水銀だけでなく身の回り、有害な物に囲まれていることを知る。
- 世界の状況を知る。インドネシアでも似たような公害が起っているが、水俣の教訓が生かされていない。

神戸で私も考えた。 おしたようこ

私は今回のツアーの「神戸での案内役」として、職員佐藤さんと一緒に、事前学習、そして報告会を担当した。

私の両親の故郷は、不知火海沿岸にある。両親にとって、そして私自身にとって、決して無関係ではないはずの「水俣病」。しかし、私の中で「水俣病」は長いこと、誰にも言うてはいけない秘密だった。

50年前(本当はもっと前からなのだろう)から今日まで、続いていることの数々は、我が家で話題にされることが全くなかった。社会の教科書で水俣病のことを勉強している最中、早く授業が終わらないかと、資料集に載っているうつろな目の少女の写真と、延々とらめっこしていたのを、今でも鮮明に覚えている。

父の実家から母の実家へは、大小の漁船が停泊している船着き場の周りを

ぐるりと廻り、海を見ながら歩く。ある日、その道すがら父はふいに立ち止まり、まるで鏡のような風いだけ夕暮れの色を目の前に、突然こう言った。「葉子、よう見とけ。これが、お父さんとお母さんのふるさとの海や。きれいやろ。世界一の海だぞ」と。普段は何も言わない父。あの時、父がわが子に伝えたかったことは何だろう。私は報告会の資料を集めながら、チラシの原稿を書きながら、ずっと考えていた。

今回の報告会で、その答えのいくつかを、父にかかわって、参加者の皆さんが私に教えてくれたような気がする。

水俣で出会った一人ひとりが語って下さった、命への尊敬の眼差し。美しい不知火海の自然に浸る心地よい時間。そして、杉本栄子さんのいう「命を粗末にしている今、世界中に水俣病がひろがっている」という厳然たる現

＝ツアーで輪がつながった！＝



ツアーに備えて、事前学習を行いました。ツアーに参加できない人も知識が深まりました。



報告会で、ツアー参加者は再度顔を合わせました。すべてのスケジュールを終え、皆大満足でした。ツアーを通して、人とのつながりを再確認できた1日となりました。

実・・・
これらを受け止めた上で、この続きは私自身が、これからの生き方を通して掴んでいかなくてはならないという思いを新たにした秋の一日だった。



追記：たいへん多忙中、チラシの挿絵を描いてくださった漫画家であり、PHDの支援者でもある松田妙子さん、ありがとうございます。彼女の描いたお地藏さんにこめられた思いを大切にしていこうと思うこの頃です。(PHDボランティア)

スーティンさん (ビルマ・28才)

松江市宍道健康センター
(保健衛生/島根県松江市)
佐藤玲子(滞在/同上)
林満知子(滞在/同上)
ナマステ会(兵庫県篠山市)
伊水小学校(教育/兵庫県)
数元佐和子(滞在/同上)
こやの里養護学校(教育/伊丹市)
大路小学校(教育/丹波市)
春日部小学校(教育/丹波市)
足立洋子(調整/同上)
荻野澄尋(滞在/同上)
三宅安子(滞在/同上)
伊保小学校(教育/高砂市)
笹山邦夫(滞在/高砂市)

ポーディーヤさん (タイ・38才)

PHD飛騨友の会
(洋裁・農業/岐阜県高山市)
BanThorPhan小物展示販売見学
(洋裁/兵庫県姫路市)
高橋武子(洋裁/三木市)
福永就子(滞在/同上)

スリヤ・プットラさん

(インドネシア・23才)
泉精一(農業・土着園等/愛媛県中島町)
西川則孝(農業/西条市)
西日本三菱農機販売株式会社 兵庫支社篠山
支店(農機メンテナンス/兵庫県篠山市)
丹南健康福祉センター(保健衛生/篠山市)
岩下八司(滞在/同上)
溝口洋子(肉牛飼育/篠山市)

共通研修

コープこうべ(協同組合/兵庫県神戸市)
生協なでしこ歯科(口腔衛生/神戸市)
食品公害を追放し安全な食べ物を求める会
(協同組合/神戸市)
タイハツ労働組合(工場見学/大阪府池田市)
旅路の里(釜ヶ崎の歴史と現状/大阪市)
JA兵庫六甲(協同組合/神戸市)
淡路島モンキーセンター(残留農薬の弊害等/
兵庫県洲本市)
山口勝弘(有機農業・果樹/南あわじ市)

**心がこもった
温かな☆気持ちを
いただきました。**

東日本研修旅行の道中、鎌倉中央公園を育てる市民の会の皆さんとの交流会で、プレゼントをいただきました。毎年お世話になる丸尾さんの子どもさんたちが、PHD協会のためにクリスマスローズの花を育て、その売り上げをPHD協会へ寄附してくれました。育てるための日数と手間を思い、感謝の気持ちでいっぱいになりました。お買い上げにご協力をしていただいた皆さんにも「ありがとうございます！」。

東日本研修旅行

11月14日～11月25日
＜岐阜県＞多治見国際交流協会/多治見中学校～＜愛知県＞小牧幼稚園～南山短期大学～アユス東海・宝泉寺～愛知淑徳大学～＜岐阜県＞国際ソロプチミストかかみ野～アユス東海・想念寺～＜静岡県＞東海大学海洋学部～＜神奈川県＞もみの木クラブ～鎌倉中央公園を育てる市民の会～＜東京都＞全日本自動車産業労働組合総連合会～ロータリー米山記念奨学会～日本労働組合総連合会～アユス仏教国際協力ネットワーク・勝楽寺～恵泉女学園大学～＜山梨県＞フルーツグローア～澤登～牧丘第二小学校～山梨英和中学校・高等学校～山梨国際交流協会/山梨YMCA～日本基督教団東海教区信徒大会～＜長野県＞日本基督教団松本教会～塩尻めぐみ幼稚園～＜岐阜県＞日本基督教団中濃教会

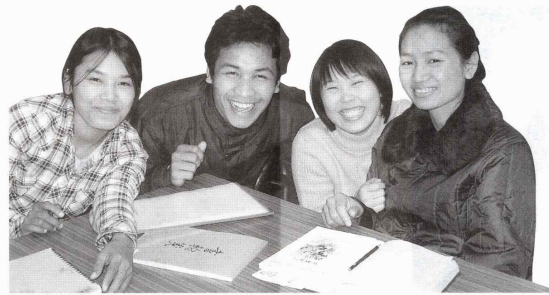
西日本研修旅行

1月11日～1月24日
＜宮崎県＞宮崎西ロータリークラブ～＜鹿児島県＞かごしま有機農業生産組合～だるま保育園～＜熊本県＞ほっとはうす～＜鹿児島県＞出水市交流会～＜熊本県＞水俣病センター相思社～西合志第一小学校～菊池恵楓園～合志市交流会～＜福岡県＞庄内小学校～飯塚市生活体験学校～日本基督教団福音伝道所～高槻市民センター交流会～旭ヶ丘会館交流会～祝町小学校～＜山口県＞梅光学院大学・高校～＜島根県＞西福寺交流会～＜広島県＞平和学習～共生庵～灰塚小学校～日影館高校～三良坂小学校～三良坂交流会～＜岡山県＞千屋小学校～岡山YMCA～足守産業廃棄物学習～行幸小学校

兵庫県内研修旅行

2/12＜高砂市＞高砂にPHD研修生を迎える会/ステップハウス
2/16＜養父市＞但馬農業高等学校～但馬交流会
2/17＜丹波市＞橋本慎司(土壌分析講習)～＜神戸市＞桜が丘小学校マナビ
2/18＜加東市＞加東市連合婦人会～＜三木市＞三木市交流会
2/25＜宍粟市＞宍粟市連合婦人会～＜丹波市＞丹波市交流会

<敬称略>

24期研修生レポート

スーさん、プットラさん、上田さん(国内研修生)、ポーディーヤさん

研修生はどう感じたの？

水俣病、ハンセン病での差別問題を学んで一人を差別したり悪く言う前に自分のこと見て。まつげのように、自分自身の悪いところは近すぎて見えぬもの。手で人を指差した時、相手を指した指は1本。残りの3本は自分を指しているよ。



プットラさん

小学校の子どもは、広島原爆資料館を見てどう思うだろう。アメリカを嫌いになったり、仕返ししたくなるということはないのか心配。教育の仕方はとても大切だと思う。

スーさん

日本のお風呂はとてもいい。体も温まるし健康にいいと思う。五右衛門風呂なら村でも作れる。帰ったら試してみてもいいかな。

ポーディーヤさん

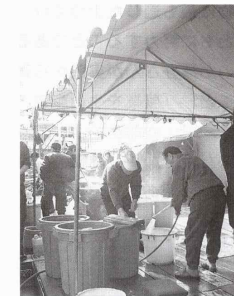
ホームレスの人は家族いない？

私が「また釜ヶ崎に行きたいね」と言ったらプットラさんは、「うん。何か(食べ物やカイロなど)持っていったらいいよ」と言っていました。

私達が目を向けていた東南アジアの人々から見ても「何かしてあげたい」と思わせるような状況が日本にもあるにも関わらず自分が海外にばかり目を向けていることに改めて気付かされてしまいました。これは、釜ヶ崎に関して「何で日本のことなのに知らない？」って言われたときにも感じました。

ホームレスの人たちは精神的につらいからタバコや酒、ギャンブルに手を出してしまうということに関して私たちは当たり前のように「そっか。」と納得していました。でもプットラさんは、何でタバコとかお酒とか女の人の

研修生は、1年の滞在中でいろいろなところへ出かけます。2月はじめ、大阪の釜ヶ崎では、その歴史やホームレスの方々を取り巻く現状を学びました。同行した村上さんがレポートします。また、研修指導者の皆さんの感想をお届けします。



炊き出しの準備を見学しました。

研修指導者ノートより

日本での研修も早4ヶ月経過。時間はあっという間に流れてゆく。淡々と流れてゆく時間とスケジュール、思うように追いつかない日本語。辞書を引っ張りだしては理解しようとする姿勢に感心することしきり。時にあせりといら立ち、あきらめに似た溜息混じりの声に彼(プットラさん)の心中を察す。1年はあっという間だろう。“経験は人生の師となろう”。

(寺田まさふみ/農業指導)

ポーディーヤさんは、時々伸びをしたり体をいたわりつつ、続けて簡易ブラウスに着手。イヤハヤねばり強い！イヤハヤ辛抱強い！！イヤハヤマイッタ！マイッタ！すごい！最高！！

(高木育代/洋裁)

私たちは、ビルマのゆったりしたおらかな生活がいいなあと思ったし、スーさんは、「ビルマはこのままじゃダメだ。日本みたいにもっと働かないと・・・」と言っておられました。その言葉が印象的でした。

(ささやま保育園/幼児教育)

シューキャ・ムアンチャンさん

(短期研修生・タイ・21才)

タイからの短期研修生です。10月30日に来日し、東日本研修旅行にも同行しました。最後は北タイツアー参加者とともに12月23日に出発し、通訳・ガイドの役割も担ってくれ、ツアーのムードメーカーでした。短い期間でしたが、学びは多かったようです。

みかんジュース工場見学

(伊藤農園/和歌山県有田市、きてら/田辺市)
堆肥工場見学(井上昌博/三木市)
インターネットを利用した映像配信技術の講習
(市民活動センター神戸/神戸市)
手作り石鹸製造見学(共同作業所ぶどうの木/神戸市) <敬称略>

和歌山で1日に2カ所、中身の濃い研修でした。有田で、個人経営のジュース工場に。失敗を重ねながら今に至った経緯、そして企業秘密を社長自ら話してくれました。写真は遠慮してくれとのことで、シューキャさんは熱心にイラストを描いていました。

田辺では、ジュースの製造工程だけでなく、グループで運営することを学びました。

みかんの皮をゴミにせず、石鹸や堆

肥、炭として利用していたことも参考になったようでした。シューキャさんの村で“100パーセントみかんジュース”をいただける日が楽しみです。

みかんの皮の再利用のヒントから、タイでもニーズがあるという石鹸作りを研修することになりました。神戸市にある共同作業所ぶどうの木で作り方を学びました。意外に力仕事で時間のかかることにびっくり。材料は、村の近くでも手に入れることができそうな

ので、帰っていっぱい作りたいとやる気満々でした。



村では洗濯用石鹸が必要とされています。

同じ買うなら、使うなら！
No.7 葡萄ジュース

「ジュース」を辞書で引くと果物、野菜、肉などの汁、液とある。子どもの頃人工甘味料、着色料などで作られた粉末を水で溶いて飲む物をジュースと思っていた。日本は経済的に豊かになり、食生活もぜいたくになった。ジュースも果汁100パーセントが珍しくないが、ここのジュースはモノが違う。

昨年11月、東日本研修旅行の道中でお世話になった山梨市の澤登さんのところで、絶品のジュースに出会った。

「純粋葡萄ジュース」は澤登さんの有機農業、農薬不使用栽培の農園で作

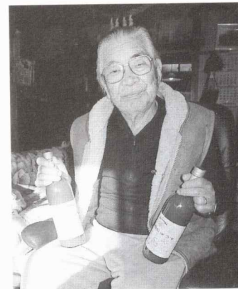
られるぶどうを絞り、加熱殺菌処理、おり引きを行っただけのもの。93年から製造、販売が始まり毎シーズン年末から手に入る。

「作物に最も適した土づくり、それは草とともに努力することである。」というのが澤登さんが実践から得た結論とのこと。「農業を生命産業として位置づけること」が澤登さんたちの夢だ。ジュースだけでなく、葡萄酒、キウイフルーツワインもある。本物をぜひ一度。



葡萄畑。草とともに生きています。

◆ジュース720ml 1,575円/本
6本単位でご注文下さい。送料別。



このシーズンは豊作でしたと澤登さん

お問い合わせ先：
〒404-0003 山梨市牧丘町倉科5893
TEL：0553-35-2160
FAX：0553-35-2255
フルーツグローアー 澤登（さわのぼり）

帰国研修生短信

◆タイ◆



ブンシーさん（00年度）
06年にチェンライ出身のアビンさん（23才）と結婚。昨年3月に聖書から名前を取ったと言う男の子キッデオが誕生。11月に子どもと一緒に村へ戻りました。アビンさんは仕事のためタイ南部のヤラー県にいますがブンシーさんは、これから村で生活し、布のグループにも復帰します。

◆コマさん（87年度）

蕎、肉牛、魚のそれぞれのグループ活動をまとめています。最近村の若者も町の学校に行くようになりましたが、卒業しても村に戻ってくる若者が少ないのが問題と話してくれました。



◆スラチさん（02年度）

米、大豆、落花生、自給用の野菜を作り、時々大工の仕事。農薬の怖さがわかるので農薬をできるだけ使わずに作物を作っています。



◆フラヤさん（88年度）

1年前からバンコク郊外の小学校で教員をしています。バンコクは物価が高くて住みにくいので、いずれは出身の村の先生をしたいと思います。



◆ネパール◆

◆アマティアさん（82年度）

引き続き会社で会計の仕事をしています。家業の薬屋の手伝いと結核予防会の手伝いもしています。PHDのシンボルとなっている女の子2人のその後の追跡調査を依頼しました。もうお母さんになっているのでしょうか。



第1期生のお二人。久しぶりの対面です。

◆バラトさん（82年度）

サマ・セワ・サムハの代表とともに、以前の家族計画時代からの縁で、BBP（ボウダ・パフニパティ・プロジェクト）PARIBAR（家族）というその地域のNGOを支援する団体の代表も引受けて6年になります。50人程のメンバーがいます。けっこう忙しいそう。

ありがとうの手紙 第11期国内研修生 上田浩代さん

こんにちは、国内研修生の上田です。大学三年を終え一年間の休学中にPHDでの研修の機会を得ました。日々、事務所や交流会やイベント先などで多くの出会いがあり貴重な経験をさせていただいています。

研修中一番長い時間を共に過ごしているのが、アジアからの研修生たちです。自分がこれから働き生きていくうえで何を一番大切にしようかと考え悩むこの時期、みんなとの出会いは大きな意味がありました。ブットラさんの親や



私は右すみです

自分の生まれた土地や文化を大切に思う気持ち、スヌーさんの素直さ・子どもへの愛情、ポーディーヤお母さんのおちゃめっぷりと好奇心が、私は大好

きです！私にとって三人とのやりとりは、日本を見つめること、自分自身を見つめることにつながっています。いつのまにか私も日本に暮らすための「フツウ」にとらわれていたけれど、もしかしたら価値観や生き方の選択肢はもっとたくさんあるんじゃないかということに気づきました。まずは自分の生活を少しずつでも変えていきたい。今これから変わっていく自分が楽しみです。研修生のみんな、ほんとうにほんとうに、ありがとう！！



大好評、丸山さんの中学校訪問

1月18日に兵庫県相生市にある那波（なば）中学校を、研修生を多く受け入れ、また彼らの村も訪ねている丸山悦司さん、陽子さんが訪問。PHDの活動内容や研修生のことについて話をしました、生徒さんの感想を紹介します。

●丸山さんはすごい行動力のある人だなと思いました。よその国で日本語だけで乗り切ってきたと聞いてびっくり。学校へ行って自転車や車などにも自由に乗れて、食べ物も十分あって、当たり前のようにすごせている毎日を感謝しなければならぬなあと思いました。

●世界には苦しんでいる子がたくさんいる。その子たちのために何かをしてあげたいと思う人はたくさんいるかもしれないけど、それを行動にうつす人は少ないと思う。丸山さんみたいなことをみんながすると大きなことになるんじゃないかなあ。



右端が話したら止まらない丸山お父さん

●人はちょっとしたきっかけで長い間つづけられる夢を見つけることができるんだなあと思った。丸山さんはいろんな国に行っている人な人と出会ってすごうれしそうでした。私もこの話を聞いたら外国へ行ってみたいくなりました。

●話を聞いて感動しました。他の国の人から「お父さん」「お母さん」を言われていると聞き驚きました。奥さんはあまりしゃべらなかつたけど、表情や声から心の温かい人だと感じました。

アジアの村で考えた事

年末年始の北タイスタディツアーには、8名が参加しました。

●金がお金をいう世の中なので、タイの人に金儲けのことばかり考えるなどというのは無茶苦茶である。「金儲けより自然を守れ」なんて言う事は無責任すぎる。だが、タイをはじめとするアジアの国々に対して、日本、アメリカのような先進国のコピーにな



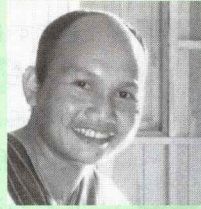
3度目のPHDツアー参加の佐藤さん（左）、日野さんは2回目。

第25期生をよろしくお願ひします！4月中旬来日予定です。



ティダさん
ビルマ・35才・女性

24期生スーさんと同じ村です。5人兄弟の末っ子です。11期生ムームーさんと一緒に幼稚園で働いています。



チャユーさん
タイ・37才・男性

24期生ポーディーヤさんの家の近所に住んでいます。奥さんと子どもの4人家族。楽器演奏が得意。明るいお父さんです。



ヘルマイェニさん
インドネシア・21才・女性

道が悪くバイクも入らないシランジャイ村から来ます。町とは行き来が少なく、昔ながらの生活がまだ残っています。

〇月×日のPHD協会

日々のちよつと嬉しい時特集

職員 佐藤 毎日の発送作業で、皆さんからいただいた記念切手を柄と値段を組み合わせて貼る時。先日、計算間違えて料金不足で戻ってきちゃいましたが。

職員 高垣 毎日は無理だけど、おかずを手作り、上手にできた時。最近の成功作はホワイトソース。一緒に食べてくれる人がいたらもっとうれしい？

職員 佐々木 帰り道にある酒屋でいい焼酎に出会う時。イモが好み、アテはヘルシー系で。外で飲むなら大阪、新世界へ。月に何度か神戸から出動。

職員 因幡 深夜、耳掃除をする時。毎夜テレビの前で。竹製の耳かきが家の数カ所に。痛くなるギリギリ手前まで突っ込み、流血もいとわない。

国内研修生 上田 休日の午前中に起きることができた時。油断するとつい午後まで寝てしまい、意識のある時間が少ない後悔の休日になってしまうため。

(上記、今年の運勢が良い順 -干支、血液型、星座での判定により- /以下判定拒否)

職員 藤野 この時期、神戸の街路にはクスノキの黒い実がたくさん落ちる。それを踏みながらの出勤。プチプチの感触がうれしくて蛇行しながら歩く時。

◆PHDの活動は会費が支えます◆

PHD会員制度のご案内

終身維持会員：	1口10万円 (任意の口数)
PHD会員：	年額 1口5千円 (任意の口数)
友の会会員：	年額 1口千円以上任意の額

当会は特定公益増進法人です。 ご寄附に対する免税の特典

当法人は特定公益増進法人としての認定を得ていますので、ご寄附に対する下記のような特典があります。

寄附者が個人の場合

寄付金合計額 (所得金額の30%未満) マイナス5千円が寄付金控除額 (所得総額から控除できる額) となります。
(例) 500万円の所得の人が1万5千円を寄附されると、1万円が寄付金控除額となり499万円の所得に対して課税されます。

寄附者が法人の場合

次の(A)と(B)のどちらか低い額が損金参入額になります。
(A) $\{ (資本金 \times 2.5 / 1000) + (所得額 \times 2.5 / 100) \} \times 0.5$
(B) 寄附金の合計

※資本金10億で、その年の所得が3億円、1年決算の会社の寄附金の損金参入額は、1,000万円未満までです。(一般では500万円)

郵便振替口座

01110-6-29688
財団法人ピー・エイチ・ディー協会

-再生紙を使用しています。

PHD NEWS

◆会費・ご寄附寄託状況

2006年10月	70件	4,670,643円
11月	84件	1,905,823円
12月	646件	4,922,798円
2007年1月	136件	1,592,722円
	936件	13,091,986円

上記の通り、皆様より会費ならびに年末募金を通して多くのご浄財をいただき、24期研修生は、元気に研修に励むことができました。心あたたまるご協力に心より感謝を申し上げます。4月には25期研修生が来日します。引き続きのご支援をお願いします。

◆2007年度スタディツアーは

以下の4本の予定です。研修生の村を訪ねます。アジアの村で生活体験を試みませんか。国内のスタディツアーも計画中。

ビルマ・・・7月中旬

インドネシア・・・8月下旬

タイ北部・・・年末年始

国内スタディツアー・・・調整中

◆教師海外研修報告書できあがりました。

JICA兵庫からの委託で実施した昨年夏のスリランカ研修参加者の授業実践の報告書。ご希望の方は、送料340円分の切手を当会までお送り下さい。

◆使用済みプリペイドカード収集を完了しました。

使用済カードの収集はすでに終了しています。なお、残数が残っているものや未使用のものに関しては、引き続きご協力をよろしくお願いします。

◆長袖Tシャツ作ります。

半袖に加えて、今年は長袖Tシャツも。無農薬栽培綿を使用し、環境に配慮しています。2,800円で販売予定。

◆研修サポーター募集

研修担当の職員と共に研修生を支え、自らも平和と健康を担う一人となるための経験を積むサポーターを募集します。特別な専門知識、経験がなくても大丈夫、農業・裁縫・教育分野の経験があれば尚良しです。日・時間帯は相談の上。詳しくは、担当高垣まで。

編・集・後・記

あなたも会報に自分の思いを寄せてみませんか。スタディツアーやPHD関連のイベントに参加された方、ボランティアとしてご協力いただいている方、みなさん大歓迎です。たくさんの意見、考えを発信する会報になればと思います。(M.S)

制作協力：坂井 時和 菅原 宗晋
増本 一朗